

フルラップ及びオフセット前面衝突試験方法の誤記訂正について

1. 改正趣旨

試験方法の更なる明確化を図る観点から、実際に試験を行い問題となった部分や解釈が不明瞭な部分があるため、フルラップ及びオフセット前面衝突試験方法の一部を改正することとする。

2. 改正の概要

(1) フルラップ・オフセット前面衝突試験方法関係

✚ ダミーの着色箇所に関する規程の制定

試験法に規定される場所以外に着色を希望する場合は事前に書面の提出を行う旨の規定を設けることとする。

✚ ハイブリッドⅢダミーの検定方法の記載文書修正

現行試験法では、技術基準参照記載を廃し、試験法本文に明記することとしているが、ダミーに着用させるシャツ及びズボンについて、技術基準参照記載が残置されていたため、試験法本文参照記載へ修正することとする。

(2) フルラップ前面衝突試験方法関係

✚ ダミー着座位置の付属書参照位置の正誤訂正を行うこととする。

3. 改正の詳細

(1) フルラップ・オフセット前面衝突試験方法関係

✚ ダミーの着色箇所に関する規程において、試験車の「インストルメンタルパネル、ステアリング等の車室内装置にもチョーク液等の塗料を塗布してもよい。」という扱いになっていたが、作業の明確化を図るため、「自動車製作者等が事前にダミーの頭部及び膝部以外の部分、インストルメンタルパネル、ステアリング等の車室内装置にチョーク液等の塗料を塗布した旨の書面が提出された場合には、チョーク液等の塗料を塗布することができる」ものとする(3.1.9.5 関係)

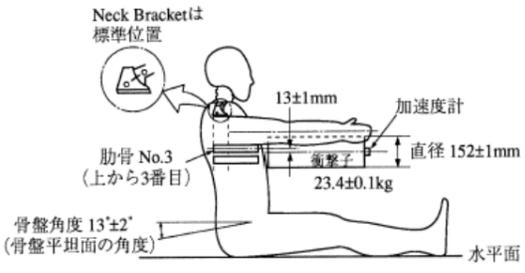
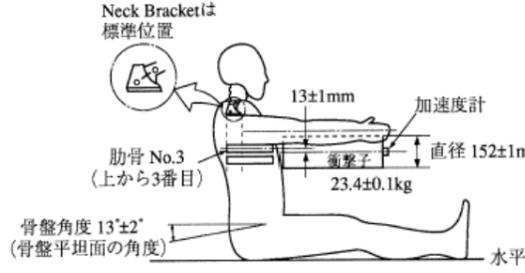
✚ ハイブリッドⅢダミーの検定方法においては、技術基準を参照する記述(本技術基準の3.1.2.(3))を廃し、付属書本文の当該部分を参照する記述(3.2.9.2.(3))に変更することとする。(別紙3 関係)

(2) フルラップ前面衝突試験方法関係

✚ ダミー着座位置の付属書参照位置の正誤訂正(誤：付属書1の9-1項 正：付属書1の13-1項)を行うこととする。(3.1.9.5 関係)

自動車アセスメント フルラップ前面衝突安全性能試験方法 新旧対照表

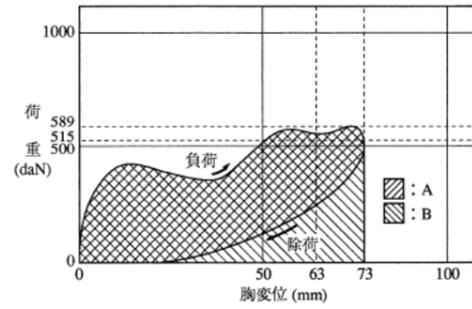
新 (案)	旧
<p style="text-align: center;"><u>平成 24 年度</u> フルラップ前面衝突安全性能試験方法</p> <p>1. ～3. 1. 9. 4 (略)</p> <p>3. 1. 9. 5 ダミーの着色 頭部と膝部の二次衝突を判定するため、ダミーの顔面及び頭部には、チョーク液等の塗料を塗布する。<u>また、自動車製作者等が事前にダミーの頭部及び膝部以外の部分、インストルメントパネル、ステアリング等の車室内装置にチョーク液等の塗料を塗布した旨の書面が提出された場合には、チョーク液等の塗料を塗布することができる。</u></p> <p>3. 1. 10～5. 1. 4 (略)</p> <p>5. 1. 5 ダミー着座位置測定結果の記録 試験機関は、3.1.9.1 項に従って搭載されたダミーの着座位置と 3.1.9.2 項に従って装着された座席ベルトの取り回し位置を付属書 1 の <u>13-1 項</u>に従って測定し、記録すること。</p> <p style="text-align: center;">以下 (略)</p>	<p style="text-align: center;"><u>平成 23 年度</u> フルラップ前面衝突安全性能試験方法</p> <p>1. ～3. 1. 9. 4 (略)</p> <p>3. 1. 9. 5 ダミーの着色 頭部と膝部の二次衝突を判定するため、ダミーの顔面及び頭部には、チョーク液等の塗料を塗布する。<u>なお、インストルメントパネル、ステアリング等の車室内装置にもチョーク液等の塗料を塗布してもよい。</u></p> <p>3. 1. 10～5. 1. 4 (略)</p> <p>5. 1. 5 ダミー着座位置測定結果の記録 試験機関は、3.1.9.1 項に従って搭載されたダミーの着座位置と 3.1.9.2 項に従って装着された座席ベルトの取り回し位置を付属書 1 の <u>9-1 項</u>に従って測定し、記録すること。</p> <p style="text-align: center;">以下 (略)</p>
<p>付属書 1：試験自動車諸元データシート</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>	<p>付属書 1：試験自動車諸元データシート</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>
<p>付属書 2：座席ベルト引き出し量、引き込み量計測方法の例</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>	<p>付属書 2：座席ベルト引き出し量、引き込み量計測方法の例</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>
<p>付属書 3：試験自動車への加速度計取り付け位置</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>	<p>付属書 3：試験自動車への加速度計取り付け位置</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>
<p>付属書 4：試験自動車諸元データシート</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>	<p>付属書 4：試験自動車諸元データシート</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>
<p>付属書 5：電気計測結果の記録例</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>	<p>付属書 5：電気計測結果の記録例</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>

<p style="text-align: right;">別紙 1</p> <p style="text-align: center;">ダミーの搭載方法</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>	<p style="text-align: right;">別紙 1</p> <p style="text-align: center;">ダミーの搭載方法</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>
<p style="text-align: right;">別紙 2</p> <p style="text-align: center;">自動車の着座位置のヒップポイントと実トルソ角の測定手順</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>	<p style="text-align: right;">別紙 2</p> <p style="text-align: center;">自動車の着座位置のヒップポイントと実トルソ角の測定手順</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>
<p style="text-align: right;">別紙 3</p> <p style="text-align: center;">ハイブリッドⅢダミー50パーセンタイルの検定方法</p> <p>1. ~1.3 (略)</p> <p>1.4 胸部特性</p> <p>次の手順に従って衝撃子により胸部に衝撃を与えたとき、衝撃子に発生する衝撃力の最大値は、515daNから589daNまでであり、かつ、ダミーの脊椎に対する胸骨の変位の最大値は、63mmから73mmまでであること。また、衝撃時の内部ヒステリシスは、69%から85%までの範囲にあること。</p> <p>(1) 検定する胸部を温度が20.6℃から22.2℃まで、湿度が10%から70%までに保たれた環境条件下で4時間以上放置する。</p> <p>(2) 図6に示すように、ダミーを水平面上に背当て及びひじ掛けなしで、かつ、肩及びひじの関節を固く締め付けて上肢を前方向に突き出した状態で座らせ、骨盤角度を13° ±2° に調節する。この場合において、ダミーには3.2.9.2.(3)に規定するシャツ及びズボンを着用させてもよい。</p> <p>図6 胸部特性試験</p>  <p>(3) 衝撃子から延長した長手方向中心線がダミー中心面上で、肋骨No.3の水平中心線よりも13.0 ± 1.0mm低くなるよう衝撃子と肋骨No.3との位置関係を調節する。</p> <p>(4) 衝撃子を6.59m/sから6.83m/sまでの速度で胸部に衝突させ、このとき衝撃子後端において発生する減速度、ダミーの脊椎に対する胸骨の変位（胸骨内部に取り付けられた変位計で測定す</p>	<p style="text-align: right;">別紙 3</p> <p style="text-align: center;">ハイブリッドⅢダミー50パーセンタイルの検定方法</p> <p>1. ~1.3 (略)</p> <p>1.4 胸部特性</p> <p>次の手順に従って衝撃子により胸部に衝撃を与えたとき、衝撃子に発生する衝撃力の最大値は、515daNから589daNまでであり、かつ、ダミーの脊椎に対する胸骨の変位の最大値は、63mmから73mmまでであること。また、衝撃時の内部ヒステリシスは、69%から85%までの範囲にあること。</p> <p>(1) 検定する胸部を温度が20.6℃から22.2℃まで、湿度が10%から70%までに保たれた環境条件下で4時間以上放置する。</p> <p>(2) 図6に示すように、ダミーを水平面上に背当て及びひじ掛けなしで、かつ、肩及びひじの関節を固く締め付けて上肢を前方向に突き出した状態で座らせ、骨盤角度を13° ±2° に調節する。この場合において、ダミーには本技術基準の3.1.2.(3)に規定するシャツ及びズボンを着用させてもよい。</p> <p>図6 胸部特性試験</p>  <p>(3) 衝撃子から延長した長手方向中心線がダミー中心面上で、肋骨No.3の水平中心線よりも13.0 ± 1.0mm低くなるよう衝撃子と肋骨No.3との位置関係を調節する。</p> <p>(4) 衝撃子を6.59m/sから6.83m/sまでの速度で胸部に衝突させ、このとき衝撃子後端において発生する減速度、ダミーの脊椎に対する胸骨の変位（胸骨内部に取り付けられた変位計で測定す</p>

る。)、衝撃子に発生する衝撃力(衝撃子の質量と減速度との積)及びヒステリシス(力の変位曲線の負荷及び除荷部分の間の面積Aと、その曲線の負荷部分の下の面積Bの比(A/B)(図7参照))を測定・計算する。

- (5) 同一の胸部等を連続的に検定するときは、(1)に規定する環境条件下で少なくとも30分の間隔を置くこと。

図7 胸部特性試験荷重-変位曲線

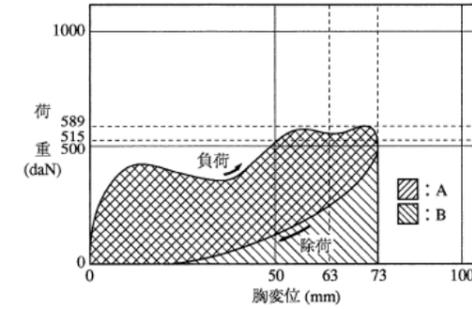


以下(略)

る。)、衝撃子に発生する衝撃力(衝撃子の質量と減速度との積)及びヒステリシス(力の変位曲線の負荷及び除荷部分の間の面積Aと、その曲線の負荷部分の下の面積Bの比(A/B)(図7参照))を測定・計算する。

- (5) 同一の胸部等を連続的に検定するときは、(1)に規定する環境条件下で少なくとも30分の間隔を置くこと。

図7 胸部特性試験荷重-変位曲線



以下(略)

別紙4

シートの調整装置の調整位置について

(略)

別紙4

シートの調整装置の調整位置について

(略)

自動車アセスメント オフセット前面衝突安全性能試験方法 新旧対照表

付属書 3 : 試験自動車への加速度計取り付け位置 (略)	付属書 3 : 試験自動車への加速度計取り付け位置 (略)
付属書 4 : 試験自動車諸元データシート (略)	付属書 4 : 試験自動車諸元データシート (略)
付属書 5 : 電気計測結果の記録例 (略)	付属書 5 : 電気計測結果の記録例 (略)
付属書 6 : 車載カメラ受光レンズ部分の搭載位置 (略)	付属書 6 : 車載カメラ受光レンズ部分の搭載位置 (略)
付属書 7 : 車載カメラの本体及びバッテリー等の搭載位置 (略)	付属書 7 : 車載カメラの本体及びバッテリー等の搭載位置 (略)
前席ダミーの搭載方法 (略) 別紙 1 の 1	前席ダミーの搭載方法 (略) 別紙 1 の 1
後試験席ダミーの搭載方法 (略) 別紙 1 の 2	後試験席ダミーの搭載方法 (略) 別紙 1 の 2
自動車の着座位置のヒップポイントと実トルソ角の測定手順 (略) 別紙 2	自動車の着座位置のヒップポイントと実トルソ角の測定手順 (略) 別紙 2

ハイブリッドⅢダミー50パーセントイルの検定方法

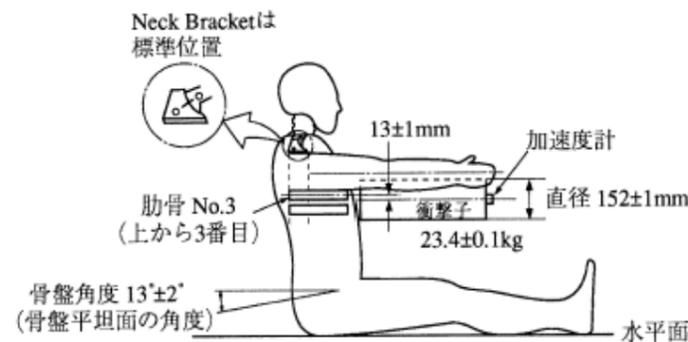
1. ~1.3 (略)

1.4 胸部特性

次の手順に従って衝撃子により胸部に衝撃を与えたとき、衝撃子に発生する衝撃力の最大値は、515daNから589daNまでであり、かつ、ダミーの脊椎に対する胸骨の変位の最大値は、63mmから73mmまでであること。また、衝撃時の内部ヒステリシスは、69%から85%までの範囲にあること。

- (1) 検定する胸部を温度が20.6℃から22.2℃まで、湿度が10%から70%までに保たれた環境条件下で4時間以上放置する。
- (2) 図6に示すように、ダミーを水平面上に背当て及びひじ掛けなしで、かつ、肩及びひじの関節を固く締め付けて上肢を前方向に突き出した状態で座らせ、骨盤角度を $13^{\circ} \pm 2^{\circ}$ に調節する。この場合において、ダミーには3.2.9.2.(3)に規定するシャツ及びズボンを着用させてもよい。

図6 胸部特性試験



- (3) 衝撃子から延長した長手方向中心線がダミー中心面上で、肋骨NO.3の水平中心線よりも 13.0 ± 1.0 mm低くなるよう衝撃子と肋骨NO.3との位置関係を調節する。
- (4) 衝撃子を6.59m/sから6.83m/sまでの速度で胸部に衝突させ、このとき衝撃子後端において発生する減速度、ダミーの脊椎に対する胸骨の変位（胸骨内部に取り付けられた変位計で測定する。）、衝撃子に発生する衝撃力（衝撃子の質量と減速度との積）及びヒステリシス（力の変位曲線の負荷及び除荷部分の間の面積Aと、その曲線の負荷部分の下の面積Bの比（A/B）（図7参照））を測定・計算する。
- (5) 同一の胸部等を連続的に検定するときは、(1)に規定する環境条件下で少なくとも30分の間隔を置くこと。

図7 胸部特性試験荷重－変位曲線

ハイブリッドⅢダミー50パーセントイルの検定方法

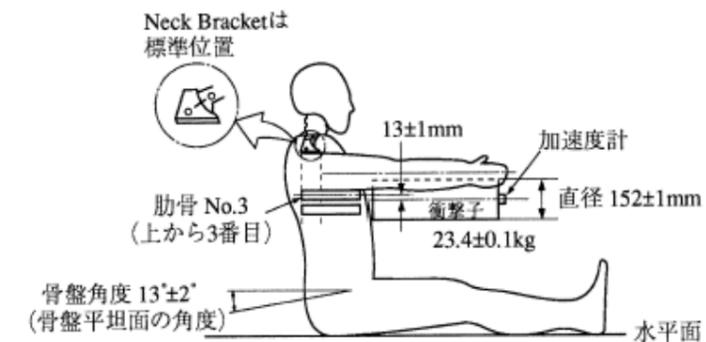
1. ~1.3 (略)

1.4 胸部特性

次の手順に従って衝撃子により胸部に衝撃を与えたとき、衝撃子に発生する衝撃力の最大値は、515daNから589daNまでであり、かつ、ダミーの脊椎に対する胸骨の変位の最大値は、63mmから73mmまでであること。また、衝撃時の内部ヒステリシスは、69%から85%までの範囲にあること。

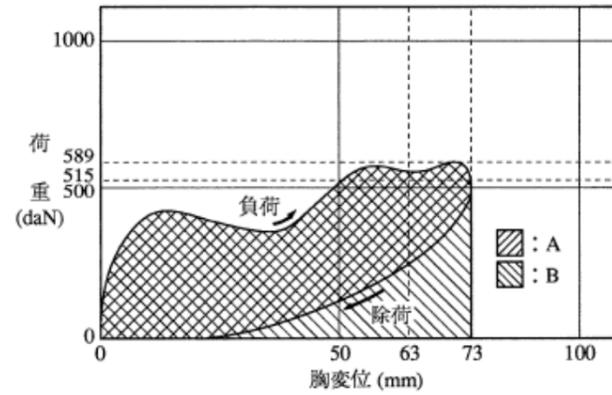
- (1) 検定する胸部を温度が20.6℃から22.2℃まで、湿度が10%から70%までに保たれた環境条件下で4時間以上放置する。
- (2) 図6に示すように、ダミーを水平面上に背当て及びひじ掛けなしで、かつ、肩及びひじの関節を固く締め付けて上肢を前方向に突き出した状態で座らせ、骨盤角度を $13^{\circ} \pm 2^{\circ}$ に調節する。この場合において、ダミーには**本技術基準の3.1.2.(3)項**に規定するシャツ及びズボンを着用させてもよい。

図6 胸部特性試験

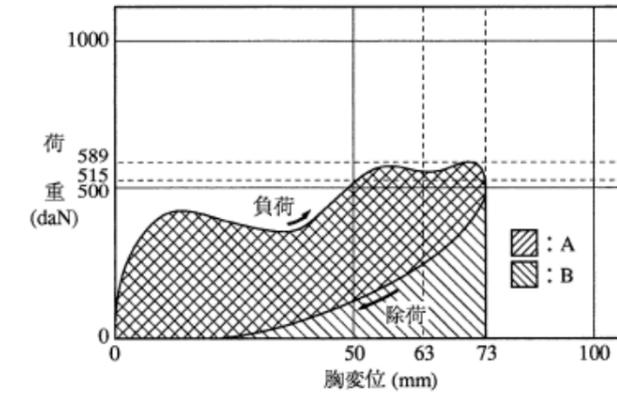


- (3) 衝撃子から延長した長手方向中心線がダミー中心面上で、肋骨NO.3の水平中心線よりも 13.0 ± 1.0 mm低くなるよう衝撃子と肋骨NO.3との位置関係を調節する。
- (4) 衝撃子を6.59m/sから6.83m/sまでの速度で胸部に衝突させ、このとき衝撃子後端において発生する減速度、ダミーの脊椎に対する胸骨の変位（胸骨内部に取り付けられた変位計で測定する。）、衝撃子に発生する衝撃力（衝撃子の質量と減速度との積）及びヒステリシス（力の变位曲線の負荷及び除荷部分の間の面積Aと、その曲線の負荷部分の下の面積Bの比（A/B）（図7参照））を測定・計算する。
- (5) 同一の胸部等を連続的に検定するときは、(1)に規定する環境条件下で少なくとも30分の間隔を置くこと。

図7 胸部特性試験荷重－変位曲線



以下 (略)



以下 (略)

別紙3の2

ハイブリッドⅢダミー5パーセンタイルの検定方法

1.4 胸部特性

次の手順に従って衝撃子により胸部に衝撃を与えたとき、衝撃子に発生する衝撃力が、390daNから440daNの間に最大となり、かつ、ダミーの脊椎に対する胸骨の変位が、50mmから58mmの範囲にあること。また、ダミーの脊椎に対する胸骨の変位が、18mmから50mmの間に衝撃子に発生する衝撃力が460daNを超えないこと。衝撃時の内部ヒステリシスは、69%から85%までの範囲にあること。

- (1) 検定する胸部を温度が20.6℃から22.2℃まで、湿度が10%から70%までに保たれた環境条件下で4時間以上放置する。
- (2) 図6に示すように、ダミーを水平面上に背当て及びひじ掛けなしで、かつ、肩及びひじの関節を固く締め付けて上肢を前方向に突き出した状態で座らせ、骨盤角度を7° ±2° に調節する。この場合において、ダミーには[3.2.9.2.\(3\)](#)に規定するシャツ及びズボンを着用させてもよい。

図6 胸部特性試験

別紙3の2

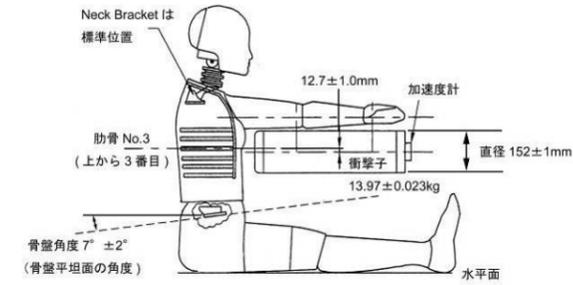
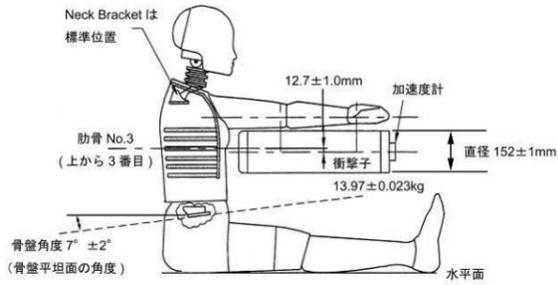
ハイブリッドⅢダミー5パーセンタイルの検定方法

1.4 胸部特性

次の手順に従って衝撃子により胸部に衝撃を与えたとき、衝撃子に発生する衝撃力が、390daNから440daNの間に最大となり、かつ、ダミーの脊椎に対する胸骨の変位が、50mmから58mmの範囲にあること。また、ダミーの脊椎に対する胸骨の変位が、18mmから50mmの間に衝撃子に発生する衝撃力が460daNを超えないこと。衝撃時の内部ヒステリシスは、69%から85%までの範囲にあること。

- (1) 検定する胸部を温度が20.6℃から22.2℃まで、湿度が10%から70%までに保たれた環境条件下で4時間以上放置する。
- (2) 図6に示すように、ダミーを水平面上に背当て及びひじ掛けなしで、かつ、肩及びひじの関節を固く締め付けて上肢を前方向に突き出した状態で座らせ、骨盤角度を7° ±2° に調節する。この場合において、ダミーには[本技術基準の3.1.2.\(3\)項](#)に規定するシャツ及びズボンを着用させてもよい。

図6 胸部特性試験

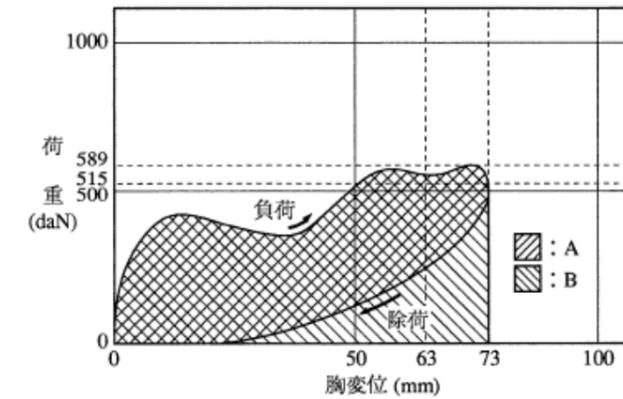
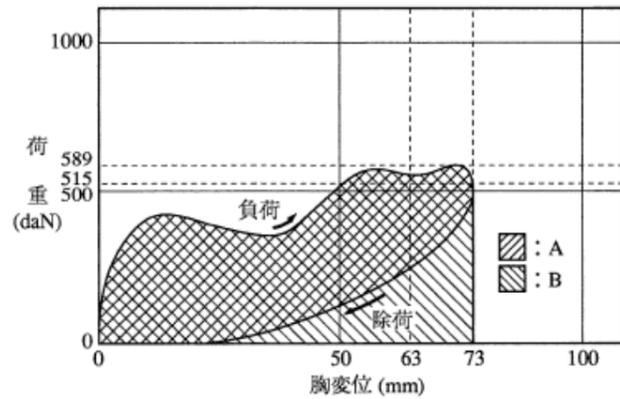


- (3) 衝撃子から延長した長手方向中心線がダミー中心面上で、肋骨NO.3の水平中心線よりも $12.7 \pm 1.0 \text{mm}$ 低くなるよう衝撃子と肋骨NO.3との位置関係を調節する。
- (4) 衝撃子を 6.59m/s から 6.83m/s までの速度で胸部に衝突させ、このとき衝撃子後端において発生する減速度、ダミーの脊椎に対する胸骨の変位（胸骨内部に取り付けられた変位計で測定する。）、衝撃子に発生する衝撃力（衝撃子の質量と減速度との積）及びヒステリシス（力の変位曲線の負荷及び除荷部分の間の面積Aと、その曲線の負荷部分の下の面積Bの比（A/B）（図7参照））を測定・計算する。
- (5) 同一の胸部等を連続的に検定するときは、(1)に規定する環境条件下で少なくとも30分の間隔を置くこと。

- (3) 衝撃子から延長した長手方向中心線がダミー中心面上で、肋骨NO.3の水平中心線よりも $12.7 \pm 1.0 \text{mm}$ 低くなるよう衝撃子と肋骨NO.3との位置関係を調節する。
- (4) 衝撃子を 6.59m/s から 6.83m/s までの速度で胸部に衝突させ、このとき衝撃子後端において発生する減速度、ダミーの脊椎に対する胸骨の変位（胸骨内部に取り付けられた変位計で測定する。）、衝撃子に発生する衝撃力（衝撃子の質量と減速度との積）及びヒステリシス（力の変位曲線の負荷及び除荷部分の間の面積Aと、その曲線の負荷部分の下の面積Bの比（A/B）（図7参照））を測定・計算する。
- (5) 同一の胸部等を連続的に検定するときは、(1)に規定する環境条件下で少なくとも30分の間隔を置くこと。

図7 胸部特性試験荷重－変位曲線

図7 胸部特性試験荷重－変位曲線



デフォーマブルバリアの定義

(略)

デフォーマブルバリアの定義

(略)

シートの調整装置の調整位置について

(略)

シートの調整装置の調整位置について

(略)

別紙 4

別紙 4

別紙 5

別紙 5